

発行：熊谷市立江南文化財センター

## TOPICS

### 埼玉県初！ほぼ完形の土偶形容器発見！！

平成 26 年 7 月から 8 月にかけて、上之に所在する諏訪木遺跡において、個人専用住宅建設予定地の発掘調査を実施したところ、弥生時代中期後半（今から約 2,000 年前）と考えられる竪穴住居跡から、土偶形容器 1 点がほぼ完全な形で出土しました。土偶形容器は、隣接する弥生時代中期～後期の大規模集落が確認されている前中西遺跡においても、同時期のものが破片や欠損している状態では出土していますが、ほぼ完全な形で出土は埼玉県初で、全国的にも数例しかなく珍しいものです。

土偶形容器とは脚のない人形の容器で、中が空洞、頭部が開いていて、ここから物の出し入れができるものです。主に福島県から愛知県に至る地域で発見されていますが、その出土事例から、一種の蔵骨器と考えられています。また、小型であることから、赤ちゃんの骨や歯が入れられていた可能性があり、形状から祖先を表現したものとされ、弥生人の強く生命の再生を願う意味が込められているものと考えられます。

高さが約 18cm、顎の一部が欠損しています。頭部や底部外面には赤彩が残り、顔面には入れ墨文様の縄文、頸部には簾状文（れんじょうもん）、お腹に添えられた両腕には 4 条の刻みが施され、5 本の指も表現されています。また、女性の胸の表現がないことから、男性と推察されます。

この土偶形容器の出土は、弥生時代の人々の死や埋葬に対する考え方などを知る上で貴重なものとなったと考えられます。なお、土偶形容器は、共に出土した弥生土器壺と一緒に、江南文化財センターにおいて、3 月末まで特別展示していますので、土偶形容器のユーモラスな姿を是非ご覧ください。



### 夏休み・県民の日体験教室

毎年恒例になりました夏休み体験教室。今年は、勾玉作りを 8 回、はにわストラップ作り（写真）を 2 回、土器作りを 1 回開催しました。今年も個性的で楽しい作品が色々と出来上がりました。子供たちの豊かな発想や創造力にはいつも感心してしまいます。また、県民の日には坂田医院旧診療所の一般公開と勾玉作りの他に新企画の「コースター作り」を開催しました。厚紙製の長方形の枠に経糸を張り、そこに横糸を上下互い違いに通していくという、編みと織りの要素の両方が含まれた、古代の布作りを応用した方法でコースターを作っていました。経糸の張りかたが少し複雑だったのか、苦戦する子もいましたが、頑張って作業を進め、全員が完成させることができました。



### 「きかは便郵」の世界

ブログ『熊谷市文化財日記』では、「きかは便郵」としたカテゴリーで、昔の熊谷地域の絵葉書を紹介しています。日本での絵葉書の発行は、明治 33 年（1900）10 月に、私製葉書の発行が許可されたことにより始まります。熊谷地域においても、明治時代末から戦前にかけて、寺院・名勝・公共施設・商店街等、多くの絵葉書が発行されました。

特に熊谷市街地は、大火・震災・空襲等の被害を受け、古い街並みはほとんど失われてしまい、当時の姿を写した写真は、各家庭にカメラが普及していない当時の記録写真として非常に貴重なものとなっています。熊谷地域の絵葉書をお持ちの方は、ぜひ熊谷市史編さん室までご一報ください。

熊谷市史編さん室（熊谷市妻沼東 1-1：電話 048-567-0355）

写真：熊谷市内の中山道の街並みが写る「熊谷名勝 本町通り」  
撮影：大正 7 年（1918）～昭和 8 年（1933）



## 市内遺跡発掘情報

### 個人住宅等の発掘調査「過去最多」

平成26年4月～12月までに実施した、公的な開発を除く緊急発掘調査は8件実施され、過去最多のペースとなっています。遺跡別では、前中西遺跡4地点、諏訪木遺跡1地点、宮脇遺跡1地点、元境内遺跡1地点、池ノ上遺跡1地点となっています。調査の要因は個人住宅の地盤改良施工によるものであり、遺跡が保護できないため記録保存のための発掘調査となります。調査期間1ヶ月、面積は100㎡に満たないものがほとんどですが、諏訪木遺跡より弥生時代の土偶型容器（TOPICS参照）が出土するなど、侮れない結果が確認され、地域の歴史解明に寄与しています。一方で東日本大震災以降、地盤改良の施工が主流となりつつあり、埋蔵文化財の現地保存が難しくなっています。（写真：池ノ上遺跡（妻沼地区）での発掘調査の様子）



### 元境内遺跡—奈良時代の住居跡が出土

平成26年9月から10月かけて、野原地内において、個人専用住宅建設予定地の発掘調査を実施しました。調査により、奈良時代（8世紀初頭）の竪穴住居跡1軒（写真）などが確認されました。この住居跡は、調査区の北東隅に確認され、全体を把握できる状態ではありませんでしたが、東にカマドが設置され、床面は貼り床構造（一旦床面を掘り下げ、そこにあらためて土を充填し搗き固め床面を造り出すもので、湿気を逃がす等の利点があった）の住居でした。調査途中、台風に見舞われ湧水に悩まされました。



出土遺物は、土師器坏・甕（かめ）、須恵器甕等が見られましたが、特に注目されるのが須恵器の仏具が出土したことです。この住居において何らかの仏教的活動が行われていたのかも知れません。本調査区の約250m北には文殊寺が所在し、「文殊寺略史」によると6世紀末～7世紀前半の推古天皇の時代から文殊寺のある野原は開けた土地であったということです。この記述と併せて歴史を考えてみるのも興味深いことではないでしょうか。

### 上之土地区画整理地内遺跡—竪穴住居跡など貴重な遺構を確認

市内上之では土地区画整理事業に伴い、事前に発掘調査を行っています。平成26年度は、5月から8月にかけて前中西遺跡、10月から12月にかけて藤之宮遺跡の調査を行いました。

前中西遺跡の調査箇所は、遺跡範囲北西部にあたり、周辺の調査結果から弥生時代中期後半（約2,000年前）の集落が広がっていることが予測されましたが、今回の調査では竪穴住居跡4軒の他に外縁で約30mを測る本遺跡では最大規模の方形周溝墓1基（写真）が確認されました。



藤之宮遺跡では、古墳時代前期（約1,700年前）から平安時代（約1,000年前）までの竪穴住居跡や掘立柱建物跡、井戸跡などが密集して多数見つかりました。特に竪穴住居跡は大半が重なりあって位置しており、同じ場所に何回も建替えられていた状況が確認されました。

## 連載 くまがやの古墳群

### ⑨石原古墳群 —荒川左岸の自然堤防上にある古墳群

石原古墳群は、石原、坪井、広瀬、小島地区の妻沼低地、荒川左岸の自然堤防上に所在する古墳時代後期に造られた古墳群です。古墳群は大きく二群に分けられ、現在15基が確認されており、そのほとんどが削平や消滅し、大きな墳丘が見られるのは僅かです。

北の坪井支群には、墳丘に埴輪が樹立し、河原石積みの胴張型横穴式石室から直刀、刀子（とうす）、鉄鏃（てつぞく）、銅釧（どうくしろ）、耳環（じかん）、切子玉を出土した薬師堂古墳など7基の古墳があります。銅釧（腕輪）を出土する後期古墳は数少なく、この薬師堂古墳が盟主墳に位置付けられ、石室の構造と併せて7世紀初頭前後に造営されたと推察されます。

南の石原支群には、墳丘が残る全長34mを測る前方後円古墳のほか円墳7基、計8基の古墳があります。石原支群の古墳は、これまでに5基が発掘調査され、いずれの古墳からも埴輪が出土しています。また、石室が確認された古墳はいずれも河原石積みの胴張型横穴式石室であることから、6世紀後半～7世紀初頭の造営と推定されます。（写真は石原古墳群第2号墳。中央手前が横穴式石室）



## ◇第7回地域伝統芸能今昔物語

平成26年11月23日、熊谷市大里生涯学習センター「あすねっと」文化ホールにて、「埼玉県芸術文化祭 2014 地域文化事業 第七回地域伝統芸能今昔物語」が行われました。天候にも恵まれ、約450人の方々の来場がありました。箏曲雅会、成沢屋台囃子、間々田万作踊り、上川原神道香取流棒術、沖縄舞踊、手島楽友会、熊谷祇園囃子、むさし江南音頭、妻沼八木節、池上獅子舞、大里音頭の11団体が出演しました。それぞれの団体に小中学生や若手演奏者などの出演があり、伝統芸能の保存継承に向けた貴重な機会となりました。(写真は手島楽友会笠踊り。八木節のリズムと共に大里地域の風土について歌唱される。)



## ◇埼玉新聞「熊谷ルネッサンス」の連載開始

平成26年9月より埼玉新聞の県北版(熊谷・深谷地域版)にて、熊谷の文化財や歴史を再認識する連載企画「熊谷ルネッサンス—アートな文化財」の連載が開始しました。第1回目の国宝「歓喜院聖天堂」に始まり、「星溪園」、「片倉シルク記念館」、「熊谷染」などについて紹介しています。ギリシア・ローマ時代への文化復興を意味する「ルネッサンス」。まさに古き時代と向き合いながら、熊谷の文化そのものである文化財や文化遺産について解説していく予定です。ご参照ください。(右：埼玉新聞での紹介記事)

## 13 アートな文化財紹介

熊谷市に点在する文化財をアートの視点で紹介する連載「熊谷ルネッサンス」。第1回は歓喜院聖天堂。苦悩から歓喜へと至らしめた人間の力と技の可能性は計り知れない。



## ◇わが街熊谷遺跡めぐり開催中

江南文化財センターでは、市内の遺跡から出土した遺物を時代順に展示した常設展の他に「わが街熊谷遺跡めぐり」と題したテーマ展(常時)や最新の成果を展示した速報展(適宜)などを開催しています。平成26年度実施の展示は、次のとおりです。どうぞご覧ください。

展示名	開催期間	主な展示品
『前中西遺跡』	H26.9.8~H27.3.6	弥生時代礫床木棺墓出土管玉
『籠原裏遺跡』	H26.8.18~H27.2.17	旧石器時代石器、平安時代土器
『弥生時代の石器』	H26.5.23~H27.3.31	打製石器、磨製石器、石戈
『諏訪木遺跡出土土偶形容器速報展』	H26.9.29~H27.3.31	弥生時代土偶形容器

## 文化財探訪

### 熊谷次郎直実・蓮生ゆかりの地

鎌倉時代、熊谷を代表する武将である熊谷次郎直実。仏門に入られた後は法力房蓮生法として多くの人々に慕われました。熊谷には直実・蓮生にゆかりのある場所や史跡が残されています。

①熊谷寺 熊谷氏の館跡に蓮生法師(出家後の直実)が草庵を建てたことが始まりといわれています。後に幡随意上人が中興し熊谷寺として知られるようになりました。今も法師が伝えた念仏の教えを受け継ぐ信仰の場となっています。(仲町43)

②奴稻荷神社 熊谷寺の山門の東隣にあります。この稲荷は戦中、常に直実を守ったと伝えられています。江戸時代には子育稲荷として広く知られ、歌川豊国の錦絵にも描かれました。

③千形神社 直実の父、直定が退治した大熊の血が流れて行った場所に社を建て血形神社として祀ったことが起源とされる神社です。(本町1-18)

④熊野堂 地元の人には「くまんどう」と呼ばれています。直定が退治した大熊の頭を葬り熊野権現を祀った地であるとされています。現在、お堂は無くその由来を伝える石碑が建てられています。(宮町1-14 辺り)

⑤蓮昭寺 熊野堂から北へ延びる道を200メートル程行った左側にあります。幡随意上人が蓮生法師の草庵を箱田に移したことが始まりと伝えられているお寺です。(箱田578)



熊谷寺

◇直実ゆかりの地をめぐるマップについては、熊谷デジタルミュージアム・マップコーナーに掲載されています。( <http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/jousetu/bunkazai/mapiroiro.htm> )

## 文化財コラム 古代との遭遇・第15話『墨書土器について② 在家遺跡』



墨書土器は、在地における識字層の存在を示すと前号で述べました。地方における文字（漢字）の受容は、7世紀ごろの地方豪族による先進文化・技術の積極的な受け入れによるものと考えられています。その後、命令や報告を文書で行う律令国家へと政治体制が移行しますが、前述の下地があり律令による文書主義が機能したと考えられています。このような流れの中で、墨書土器が出現したといえます。

墨書土器は東日本に多く、中でも埼玉県・千葉県で多く確認されています。文字だけをみると、全体的に共通した種類が確認されますが、地域的に絞ると、共通性は限定される傾向にあるようです。7世紀代は少なく、8世紀になり増加する傾向がうかがえます。これは、8世紀になり全国的に造営が進む、官衙（古代の役所）や付随する寺院、関連する集落などが関係しています。平成25年に発掘調査された別府地内の在家遺跡も8～9世紀に存在した官衙関連遺跡と判明しており、特に西別府湯殿神社周辺に所在した幡羅郡家との関わりが考えられます。 写真：分析箇所（左上）と赤外線分析画像（右下）



### ◇市政宅配講座で文化財を学ぼう。

（問合せ先：熊谷市広報広聴課 048-524-1156 または江南文化財センター）

講座名	内容
ようこそ「江南文化財センター」へ	文化財センター内の展示品・出土品について解説します。
わくわく土器ドキ石器講座	市内の遺跡から発掘された現物の出土品を紹介しながら、熊谷の古代について解説します。
名勝「星溪園」を味わう	名勝「星溪園」において、建物、庭園について説明します。
「伝統芸能の世界」今昔物語	無形民俗文化財と地域の伝統芸能をDVD映像で説明します。
中山道をめぐる熊谷の歴史と文化財	中山道と熊谷の歴史的な関わりについて説明します。
熊谷歴史たてもものレビュー	文化財建造物について解説します。（国宝「歓喜院聖天堂」など）
指定文化財「絵画」への招待	文化財「絵画」について解説します。（華山・晴湖・恒友など）

### 編集後記

NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹「文」を主人公に幕末から明治に生きた人々の姿を描いたものです。熊谷の地と「花燃ゆ」を結ぶ人物が、「文」の夫であり、かつて存在した熊谷県の県令（現在の知事）を務めた楢取素彦（かとり・もとひこ）です。楢取は、大里・根岸家の幕末の志士、根岸友山とも親交がありました。明治6年（1873）6月15日、群馬県（第1次）と入間県が合併して熊谷県が成立。熊谷県令に就任してからは熊谷宿などにも足を運び、広大な県の行政管理に奔走しました。新たな群馬県の設立と共に短命に終わった熊谷県ですが、その頃は世界文化遺産「富岡製糸場」の草創期にも当たり、様々な史実が今に語り継がれています。近代日本と共に生きた楢取の姿から、明治時代の熊谷の歴史物語が見えてくるのかも知れません。



発行：平成27年1月15日

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

文化財の紹介、ブログ「熊谷市文化財日記」、「BUNKAZAI 情報」カラー版などを豊富に掲載